

【 大学院聴講生 】

※2022年3月7日現在

担当専修	講義コード	講義科目名	単位	開講期	曜日	時間1	曜日2	時間2	担当教員名	使用言語	聴講可否	シラバス連番	備考
											大学院聴講生		
科学哲学科学史	8231001	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	金	2			小長谷 大介	日本語	○	現代文化学1	
科学哲学科学史	8231003	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	金	2			伊勢田 哲治	日本語及び英語	○	現代文化学2	
科学哲学科学史	8231004	科学哲学科学史(特殊講義)	2	後期	金	2			伊勢田 哲治	英語	○	現代文化学3	
科学哲学科学史	8231007	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期集中	他	他			平岡 隆二	日本語	○	現代文化学4	
科学哲学科学史	8241001	科学哲学科学史(演習)	2	前期	火	2			斎藤 光	日本語	○	現代文化学5	
科学哲学科学史	8241002	科学哲学科学史(演習)	2	後期	火	2			斎藤 光	日本語	○	現代文化学6	
科学哲学科学史	8241003	科学哲学科学史(演習)	2	前期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学7	
科学哲学科学史	8241004	科学哲学科学史(演習)	2	後期	金	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学8	
科学哲学科学史	8241005	科学哲学科学史(演習)	2	前期	火	5			矢田部 俊介	日本語	○	現代文化学9	
科学哲学科学史	8241006	科学哲学科学史(演習)	2	後期	火	5			矢田部 俊介	日本語	○	現代文化学10	
科学哲学科学史	8231008	科学哲学科学史(特殊講義)	2	前期	月	4	月	5	伊勢田 哲治,清水 雄	日本語	○	現代文化学11	
メディア文化学	8931009	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	月	4			松永 伸司	日本語	○	現代文化学12	
メディア文化学	8941001	メディア文化学(演習I)	2	前期	金	2			喜多 千草	日本語	○	現代文化学13	
メディア文化学	8941002	メディア文化学(演習I)	2	後期	水	4			松永 伸司	日本語	○	現代文化学14	
メディア文化学	8944009	メディア文化学(演習II)	2	後期	水	3			伊藤 遊	日本語	○	現代文化学15	
メディア文化学	M432001	メディア文化学(演習)	4	通年	水	5			喜多 千草,松永 伸司	日本語	○	現代文化学16	
メディア文化学	8931023	メディア文化学(特殊講義)	2	前期集中	他	他			坂本 尚志	日本語	○	現代文化学17	
メディア文化学	8931030	メディア文化学(特殊講義)	2	前期	火	2			小堀 聡	日本語	○	現代文化学18	
メディア文化学	8931031	メディア文化学(特殊講義)	2	後期	火	2			小堀 聡	日本語	○	現代文化学19	
現代史学	8433001	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	3			小野沢 透	日本語	○	現代文化学20	
現代史学	8433004	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学21	
現代史学	8433005	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	3			藤原 辰史	日本語	○	現代文化学22	
現代史学	8433006	現代史学(特殊講義)	2	前期	水	2			高木 博志	日本語	○	現代文化学23	
現代史学	8433007	現代史学(特殊講義)	2	後期	水	2			高木 博志	日本語	○	現代文化学24	
現代史学	8433008	現代史学(特殊講義)	2	前期	月	4			村上 衛	日本語	○	現代文化学25	
現代史学	8433009	現代史学(特殊講義)	2	後期	月	4			村上 衛	日本語	○	現代文化学26	
現代史学	8433020	現代史学(特殊講義)	2	前期	火	2			小堀 聡	日本語	○	現代文化学27	
現代史学	8433021	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	2			小堀 聡	日本語	○	現代文化学28	
現代史学	8433003	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	4			藤目 ゆき	日本語	○	現代文化学29	
現代史学	8433010	現代史学(特殊講義)	2	後期	月	3			西山 伸	日本語	○	現代文化学30	
現代史学	8433024	現代史学(特殊講義)	2	後期	火	1			石川 亮太	日本語	○	現代文化学31	
科学哲学科学史	8202001	系共通科目(科学哲学)(講義)	2	前期	水	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学32	学部科目
科学哲学科学史	8204001	系共通科目(科学哲学)(講義)	2	後期	水	3			伊勢田 哲治	日本語	○	現代文化学33	学部科目
科学哲学科学史	8206001	系共通科目(科学史I)(講義)	2	前期	水	2			瀬戸口 明久	日本語	○	現代文化学34	学部科目
科学哲学科学史	8208001	系共通科目(科学史II)(講義)	2	後期	水	2			瀬戸口 明久	日本語	○	現代文化学35	学部科目
メディア文化学	8902001	系共通科目(メディア文化学)(講義a)	2	後期	金	3	金	4	喜多 千草,松永 伸司	日本語	○	現代文化学36	学部科目
現代史学	8407001	系共通科目(現代史学)(講義I)	2	前期	水	3			小野沢 透	日本語	○	現代文化学37	学部科目
現代史学	8408001	系共通科目(現代史学)(講義II)	2	後期	水	3			塩出 浩之	日本語	○	現代文化学38	学部科目

現代文化学1

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		龍谷大学 経営学部 教授 小長谷 大介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		湯川秀樹とその時代を考える									
【授業の概要・目的】											
日本初のノーベル賞受賞者となった物理学者・湯川秀樹（1907-1981）。素粒子論という新分野を開拓した湯川の研究は、どのような時代背景のもと、どのような文化的・学術的影響を受けながら生まれ発展したのか。本授業では、近代日本の科学技術による国際的業績の一事例となった湯川の理論物理研究とその周辺を通じて、近代以降の日本の科学史の一断面を考察する。また、京都大学基礎物理学研究所の湯川記念館史料室が所蔵する史料の利用も予定している。											
【到達目標】											
近代日本の科学の発展について様々な関連事象を交えて理解するとともに、関連する現存史料の取り扱いや活用についての基礎知識を習得する。											
【授業計画と内容】											
1．ガイダンス 2．近代日本の物理学の概観 3．明治期の物理学者 4．大正期の物理学者 5．昭和期の物理学者 6・7．少年期の湯川と関連史料 8～10．青年期の湯川と関連史料 11～13．青年期以後の湯川と関連史料 14．湯川秀樹と各時代 15．フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100％）でみる。 各授業テーマに関する小レポート、期末レポートによる評価点を総合して平常点とする。											
【教科書】											
とくに使用せず、プリント・PDFを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介する参考文献・資料を読み、理解・関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

連絡は電子メール（konagaya@mail.ryukoku.ac.jp）で受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学2

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		科学哲学入門上級 Advanced Introduction to Philosophy of Science									
【授業の概要・目的】											
<p>この特殊講義においては科学哲学の古典的な論文や基礎的な論文を中心とした講義を通して、科学哲学という分野に入門することをめざします。具体的には、前半ではミル、ヒューウェル、ポパー、グリュンバウムらの古典的な論文を核として、その背景についてレクチャーを行います。後半では、近年注目を集める研究領域からいくつかをピックアップし、関連する基礎文献をリーディングとしつつ、背景や現在の諸問題との関わり（特に日本という文脈での含意）についてレクチャーを行います。こうした文献の読解とレクチャーを通して、科学哲学という分野の広がりを知ってもらうことがこの授業のねらいです。</p> <p>The aim of this special lecture is to introduce the participants into the field of philosophy of science through lectures focusing on classic and basic papers in the field. More concretely, In the first half of the class, we read classic papers of Mill, Whewell, Popper, Grunbaum and others. Lectures on the background of the papers will be given. In the latter half of the class, we pick up several areas in philosophy of science that attract attention recently. We read related basic literature and there will be lectures on the background, relationship with contemporary issues (especially implications in Japanese context) of the readings. Through such readings and lectures, this class try to show the breadth of the field of philosophy of science.</p>											
【到達目標】											
<p>科学哲学という分野の主要な課題を説明できるようになる。科学哲学の考え方を現在のさまざまな問題と結びつけることができるようになる。</p> <p>To be able to explain the historical background and basic issues of the field of philosophy of science. To be able to connect ideas in philosophy of science to various contemporary issues.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は日本語と英語で行われます。</p> <p>第一部 科学哲学の古典的諸問題 1 科学的推論（4週） 2 科学とは何か（3週）</p> <p>第二部 科学哲学のさまざまな基礎的課題 3 医療の哲学（4週） 4 予防原則の哲学（3週）</p> <p>まとめ(1週)</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

The lectures will be given both in Japanese and English.

Part I Classical Issues of Philosophy of Science

1. Scientific Reasoning (4 weeks)
2. What is Science? (3 weeks)

Part II Various Basic Issues in Philosophy of Science

- 3 Philosophy of Medicine (4 weeks)
- 4 Philosophy of Precautionary Principle (3 weeks)

Wrap up (1 week)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は、授業内容を理解できていること、またその理解した内容を適切に活用して具体例が分析できていること、という視点から行う。

The evaluation will be based on two papers (50% each). The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

【教科書】

以下の書籍から関連箇所を授業内で配布。

Bird, A. and Ladyman, J., eds. (2013) *Arguing about Science*. Routledge.

relevant parts of the following book will be distributed in the class.

Bird, A. and Ladyman, J., eds. (2013) *Arguing about Science*. Routledge.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

科学哲学科学史(特殊講義)(3)へ続く

科学哲学科学史(特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style where on-demand lectures and real-time discussions are used, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学3

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		学際性の哲学 Philosophy of Interdisciplinarity									
【授業の概要・目的】											
<p>現代社会におけるさまざまな問題に対処する上で、さまざまな分野の知見を総合し、学際的に研究を行うことの必要性は高まっている。しかし、科学哲学は伝統的に物理学や生物学などの古典的な研究分野を考察の対象とし、学際的な研究に特有の問題を扱うことは少なかった。この授業では、学際性を正面から主題にすることで学際的な研究とはどのようなものか、そして哲学はこうした研究に対して何ができるのかを考える。</p> <p>To deal with various problems in contemporary society, the necessity to conduct interdisciplinary research utilizing insights from various fields of knowledge gets increasingly more pressing. However, the research subject of traditional philosophy of science has been more conventional fields like physics and biology, paying little attention to problems specific to interdisciplinary studies. In this class, interdisciplinarity is taken as the main subject; we look at what an interdisciplinary study is and what philosophy of science can do to that kind of study.</p>											
【到達目標】											
<p>学際性についてこれまでどのようなことが問題となってきたかを理解し、さまざまな立場に対して批判的な検討ができるようになる。</p> <p>To understand what kind of issues are raised as to interdisciplinarity; to acquire the ability to examine various positions critically.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一部 学際性とは何か Part 1 what is interdisciplinarity</p> <p>1 学術分野とは what are disciplines?</p> <p>2 学際研究とは what are interdisciplinary studies?</p> <p>3 学際研究に哲学はどう関わるか relevance of philosophy</p> <p>第二部 学際性にまつわる諸問題 Part 2 Issues with interdisciplinarity</p> <p>4 学際性の類型 typologies of interdisciplinarity</p> <p>5 学際研究の認識論的問題 epistemic challenge of interdisciplinary research</p> <p>6 分野横断的研究の方法論 methods for cross-disciplinary research</p> <p>7 学際的学習 interdisciplinary learning</p> <p>8 産軍学共同と学際性 the military-industrial route to interdisciplinarity</p> <p>9 学際的研究の評価 evaluating interdisciplinary research</p> <p>第三部 学際研究の具体例 Part 3 concrete examples of interdisciplinary studies</p> <p>10 地球科学における学際性 interdisciplinarity in earth sciences</p> <p>11 生物学における学際性 interdisciplinarity in biological sciences</p> <p>12 社会科学における学際性 interdisciplinarity in social sciences</p> <p>13 科学技術社会論 science and technology studies (STS)</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

14 認知科学cognitive science

15まとめ wrap-up

[履修要件]

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

[成績評価の方法・観点]

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は授業内容をどの程度理解できているか、またその理解した内容をどの程度活用して具体例が分析できているか、という視点から行う。

The evaluation will be based on two papers (50% each). The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

[教科書]

以下の書籍からリーディングとして使用する部分を授業内で配布

Rolf Hvidtfeldt (2017) The Structure of Interdisciplinary Science. Palgrave Macmillan.

Robert Frodeman, et al. eds. (2016) The Oxford Handbook of Interdisciplinarity. Oxford University Press.

The readings are from the following books and will be distributed in the class.

Rolf Hvidtfeldt (2017) The Structure of Interdisciplinary Science. Palgrave Macmillan.

Robert Frodeman, et al. eds. (2016) The Oxford Handbook of Interdisciplinarity. Oxford University Press.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求める。

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30(オンライン授業となった場合は設けない)。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリ

科学哲学科学史(特殊講義)(3)へ続く

科学哲学科学史(特殊講義)(3)

アルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style where on-demand lectures and real-time discussions are used, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学4

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 平岡 隆二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		江戸の宇宙観									
[授業の概要・目的]											
江戸時代の天文暦学者たちは、西洋や中国から伝来する古今東西の天文学知識を手掛かりに、独自の宇宙観・自然認識を練り上げていった。その成立と変遷をたどることで、科学史・思想史・東西交流史についての理解を深める。また、京大が所蔵する関連史料の現地調査に参加し、その整理や分析の手法を学ぶ。											
[到達目標]											
現代とは異なる自然認識とその利用のあり方を、具体的な史料に即して理解する能力を養う。またその特質と意義について、史的文脈を踏まえつつ俯瞰的に説明する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
1．ガイダンス 2・3．史料と背景 4・5．南蛮学：アリストテレスから和時計まで 6・7．江戸の宇宙観：『天経或問』と気の哲学 8・9．天文方、望遠鏡、梵暦運動、蘭学 10～14．書誌調査とその方法 15．フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（5割）とレポート（5割）。レポートはこの授業に関連する研究や史料にもとづいて作成すること。											
[教科書]											
使用せず、プリントを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 渡辺敏夫『近世日本天文学史 上・下』（恒星社厚生閣、1986-87年） 嘉数次人『天文学者たちの江戸時代：暦・宇宙観の大転換』（ちくま書房、2016年） その他、授業中にも適宜紹介します。											
（関連URL） http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業で紹介する参考文献を読み、理解・関心を深めておくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
授業の実施形態（対面・オンライン・現地調査等）について、随時最新情報を確認すること。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学5

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 教授 齋藤 光			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「科学」と見ること / 見えるもの									
【授業の概要・目的】											
<p>「科学」という自然についての説明形式は、科学革命期（1543～1687）に形作られたということ を前提にして、その科学が「自然」を「見る」ことそして説明することで、「自然」がどのように 見えてくるか、ということ共通のコンセプトとして、前半部では、大地の中で「化石」が見えて くることの歴史を考え、後半部では、19世紀後半に始まる「生命」を「見る」「見せる」技術の開 発を通して、「自然」の一部である「生命」がどのように見えていくのかについて考え学ぶ。 二つのテキストを精読し、関連の一次資料や二次文献をサブテキストとして使用して、より広く 立体的な理解をはかるように演習を進めていく予定である。 用いるテキストは以下のとおりである。 マーティン・J・S・ラドウィック著、菅谷暁・風間敏共訳『化石の意味 古生物学史挿話』（ みすず書房、2013 / 原著1985） リサ・カートライト著、長谷正人監訳、望月由紀訳『X線と映画 医療映画の視覚文化史』（ 青弓社、2021 / 原著1995）</p>											
【到達目標】											
<p>テキストの内容を、そのテキストが含まれた文脈をも理解したうえで、より正確に縮約要約でき るようになる。 「科学」の位置とその影響について理解し説明できるようになる。 「地質学」という認識のありかたと「化石」という観念の出現定着について理解し説明できるよ うになる。 「写真」出現による自然理解・自然説明のあり方の変容について理解し説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンスとイントロダクション（必ず出席ください） 演習担当者が整理した、「科学」「技術」「科学技術」について概説し、そのうえで、演習の進 め方を提案し、テキスト担当者を決める。演習参加者の人数が少ない場合は、複数回担当するこ とがあり、また、多い場合（13人以上）は、サブテキストを適宜使用し担当してもらう。 以下予定 第2回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第一章」 第3回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第二章」 第4回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第三章」 第5回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第四章」 第6回：『化石の意味 古生物学史挿話』 「第五章」 第7回：ここまでのまとめと今後の方向について。 第8回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第1章」 第9回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第2章」 第10回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第3章」</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

第11回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第4章」
第12回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第5章」
第13回：『X線と映画 医療映画の視覚文化史』 「第6章」
第14回：『化石の意味』と『X線と映画』に関してまとめ 。それぞれのテキストのポイントに関して考え問題点を整理する。
第15回：『化石の意味』と『X線と映画』に関してまとめ 。科学が「自然」を「見る」ことそして説明することで、「自然」がどのように見えてくるか、について考え問題点を整理する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

テキストの担当部分の報告等；40%、議論やディスカッションへの積極的参加；15%、演習を踏まえての最終レポート提出；45%
上は、現在の予定である。最終的には演習内で方法等について提示する。

【教科書】

マーティン・J・S・ラドウィック 『化石の意味 古生物学史挿話』（みすず書房、2013）ISBN: 9784622077671
リサ・カートライト 『X線と映画 医療映画の視覚文化史』（青弓社、2021）ISBN:9784787274434
授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
演習時間内で提示予定。

【授業外学修（予習・復習）等】

演習がスタートするまでに、ピーター・J・ボウラー著、鈴木善次他訳『進化思想の歴史（上・下）』（朝日新聞社（朝日選書）、1987年）にざっと目を通しておくのが望ましい。
また、ベンヤミンの「複製技術時代の芸術作品」も検討しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学6

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 教授 齋藤 光			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「科学」と帝国 / 植民地									
【授業の概要・目的】											
<p>「科学」あるいは「科学技術」が、欧米帝国による欧米外地域の植民地化と支配において、また、後発帝国である日本によるアジア地域の植民地化と支配において、どのような意味やどのような役割を持ったのかについて考える。あるいは、そうした主題を考える場合の基本的な構えについて学ぶ。</p> <p>大きくとらえると、科学・科学技術が、西欧諸国の世界支配に重要な役割を果たすのは18世紀からともいえるし、じつは大航海時代の始まりから知や技術が一定の役割を担っていたとも考えることも出来る。とはいえ、科学・科学技術が、ネットワーク的な支配の重要要素となっていたのは19世紀に入ってからであろう。1960年以降の脱植民地の動きの広がりの中でも、グローバルシステムとしての科学技術は、基本的には旧宗主国に中心を置く機能として存在し働いているとも考えることも可能である。</p> <p>こうした現状を前提としながら、この演習では、19世紀あるは20世紀前半に「科学」あるいは「科学技術」が帝国 / 植民地といかに関係していたかに関して、テキストの精読を通してアプローチしていく。また、関連文献をサブテキストとすることで、より広く立体的な理解を測るように演習を進めていく予定である。</p> <p>用いるテキストは以下のいずれかにする予定である。</p> <p>デイヴィッド・アーノルド著、見市雅俊訳『身体の植民地化 19世紀インドの国家医療と流行病』（みすず書房、2019 / 原著1993）</p> <p>アロン・S・モーア著、塚原東吾監訳、三原芳秋ほか訳『「大東亜」を建設する 帝国日本の技術とイデオロギー』（人文書院、2019 / 原著2013）</p>											
【到達目標】											
<p>テキストの内容を、そのテキストが含まれた文脈をも理解したうえで、より正確に縮約要約できるようになる。</p> <p>「科学」や「科学技術」と世界システムの関係について理解し説明できるようになる。</p> <p>ある個別科学・科学技術が帝国 / 植民地関係でいかに機能したかについて理解し説明できるようになる。</p> <p>現在のグローバルな科学・科学技術といわゆる「植民地科学」の関係について理解し説明できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンスとイントロダクション（必ず出席ください）</p> <p>演習担当者が整理した、「科学」「技術」「科学技術」について概説し、そのうえで、演習の進め方を提案し、テキスト担当者を決める。演習参加者の人数が少ない場合は、複数回担当することがあり、また、多い場合（13人以上）は、サブテキストを適宜使用し担当してもらう。</p> <p>第2回～第14回：上述のメインテキストのいずれか、または、両者を読む</p> <p>上述のメインテキストを精読し、関連する一次資料や二次文献をサブテキストとして、セクソロ</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

ジェンダー科学について検討してゆく。毎回のテキスト担当者は、レジュメを用意してテキストの内容について解説検討批判する。また、論点となる要素を抽出し提示する。その後、参加者で相互に議論/ディスカッションする。
第15回：まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

テキストの担当部分の報告等；40%、議論やディスカッションへの積極的参加；15%、演習を踏まえての最終レポート提出；45%
上は、現在の予定である。最終的には演習内で方法等について提示する。

【教科書】

テキストはプリント配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
演習時間内で提示予定。

【授業外学修(予習・復習)等】

事前の予習は必要ない。
演習スタート後の予習復習に関しては、そのつど指示する予定である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学7

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学における価値中立性の理念 The value-free ideal for science									
【授業の概要・目的】											
<p>科学が価値中立的であるべきだという理念は現在でも大きな影響力を持つ反面、その理念がそもそも意味をなすのか、意味をなすとしても価値中立性を目指すのは望ましいことなのかなど、様々な観点から検討を要する理念でもある。こうした科学と価値の関係は21世紀の科学哲学の主要問題ともなっている。今回の演習ではダグラスの古典的著作を手がかりに、この問題について理解することを目的とする。</p> <p>The ideal that science should be value-free is still influential nowadays; however, this ideal is at the same time controversial in that whether the ideal makes sense at all, and whether the pursuit of the ideal is desirable if it makes sense. Such an issue of the relationship between science and value is one of focal issues in 21st century philosophy of science. In this class we use Douglas's classical book to understand the issue.</p>											
【到達目標】											
<p>ダグラスの科学の価値中立性に関する考え方を理解し、批判的に検討できるようになる。</p> <p>To understand Douglas's ideas on the value-free ideal for science, and to be able to examine her position critically.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテキストの第三章以降を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Douglas, Heather E. (2018) Science, Policy and the Value-free Ideal. University of Pittsburgh Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト10ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり</p> <p>イントロダクション(1回) 学生による発表担当(13回) まとめ(1回)</p> <p>We read the following book (from chapter 3) by turns, and discuss the content. Douglas, Heather E. (2018) Science, Policy and the Value-free Ideal. University of Pittsburgh Press.</p> <p>The basic format of the class is as follows: we read approximately 10 pages of the reading in one meeting, and have some discussion. A student (or a team of students) is responsible for a presentation that introduces the reading to the meeting (the assignment is done beforehand).</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

The class structure is:

Introduction (1 meeting)

Student presentations (13 meetings)

wrap-up (1 meeting)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。

発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

The evaluation will be based on the class presentation(s) and the final paper (50% each). The points of view of the evaluation are: correct understanding of the assigned part and its appropriate introduction for class presentation(s), and correct understanding of the chosen part and its appropriate critical examination for the final paper.

【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布

Relevant parts of the above-mentioned book will be distributed in the class.

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

All the participants are expected to read the assigned reading before each class. The presenter prepares a several A4 pages of handout that summarizes the assigned part before the class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。

科学哲学科学史(演習)(3)へ続く

科学哲学科学史(演習)(3)

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学8

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		創発の思想 Philosophy of emergence									
【授業の概要・目的】											
<p>創発的性質、すなわち部分に還元されないような全体の持つ性質は、さまざまな科学分野の中で取り上げられてきた考え方であり、科学哲学者たちもこの問題について考えてきた。今回の演習では創発概念の歴史的背景を知り古典的な論文を読むことで、この概念について哲学者が何を問題にし、どういうことを提案してきたのかの理解を目指す。</p> <p>Emergent properties, i.e. properties of a whole that are not reducible to its parts, is a notion entertained in many different scientific fields, and philosophers of science also have paid attention to it. In this class we aim at getting understanding as to what philosophers has been thinking about this notion and what they propose, by knowing historical background of the notion and by reading some classical papers.</p>											
【到達目標】											
<p>創発の哲学的議論において何が論じられているかを理解し、哲学者たちの立場を批判的に検討できるようにする。</p> <p>To understand what are the issues discussed in philosophical arguments on emergence, and to be able to examine positions of philosophers critically.</p>											
【授業計画と内容】											
以下のアンソロジーからいくつかの論文を輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。											
<p>Bedau, M. and Humphreys, P eds. (2008) Emergence: Contemporary Readings in Philosophy and Science. The MIT Press.</p> <p>具体的には以下のような論文（抜粋含む）を読むことを考えている</p> <p>B.P. McLaughlin "The rise and fall of British emergentism"</p> <p>C. Hempel and P. Oppenheim "On the idea of emergence"</p> <p>W. C. Wimsatt "Aggregativity: reductive heuristics for finding emergence"</p> <p>P. Humphreys "How properties emerge"</p> <p>J. Kim "Making sense of emergence"</p> <p>D. C. Denett "Real patterns"</p> <p>P.W. Anderson "More is different: broken symmetry and the nature of the hierarchical structure of science"</p> <p>A. Assuad and N. H. Packard "Emergence"</p> <p>J. Forder "Special sciences (Or: the disunity of science as a working hypothesis)"</p>											
<p>基本的に一回の授業でテキスト10ページ程度を読み、それについてディスカッションする形です。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

イントロダクション(1回)
学生による発表担当(13回)
まとめ(1回)

We read articles from the following anthology by turns, and discuss the content.

Bedau, M. and Humphreys, P eds. (2008) *Emergence: Contemporary Readings in Philosophy and Science*. The MIT Press.

Current plan is to read the following papers (including excerpts):

B.P. McLaughlin "The rise and fall of British emergentism"

C. Hempel and P. Oppenheim "On the idea of emergence"

W. C. Wimsatt "Aggregativity: reductive heuristics for finding emergence"

P. Humphreys "How properties emerge"

J. Kim "Making sense of emergence"

D. C. Denett "Real patterns"

P.W. Anderson "More is different: broken symmetry and the nature of the hierarchical structure of science"

A. Assaad and N. H. Packard "Emergence"

J. Forder "Special sciences (Or: the disunity of science as a working hypothesis)"

The basic format of the class is as follows: we read approximately 10 pages of the reading in one meeting, and have some discussion. A student (or a team of students) is responsible for a presentation that introduces the reading to the meeting (the assignment is done beforehand).

The class structure is:

Introduction (1 meeting)

Student presentations (13 meetings)

wrap-up (1 meeting)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (*Philosophy of Science: A Very Short Introduction*) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。

発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

The evaluation will be based on the class presentation(s) and the final paper (50% each). The points of view of the evaluation are: correct understanding of the assigned part and its appropriate introduction for class presentation(s), and correct understanding of the chosen part and its appropriate critical examination for the final paper.

科学哲学科学史(演習)(3)へ続く

科学哲学科学史(演習)(3)

[教科書]

使用しない

「授業計画と内容」で挙げた書籍から使用する部分を授業内で配布

Relevant parts of the above-mentioned book will be distributed in the class.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

All the participants are expected to read the assigned reading before each class. The presenter prepares a several A4 pages of handout that summarizes the assigned part before the class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30(オンライン授業となった場合は設けない)。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題を取りあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。</p> <p>このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。</p> <p>また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理学とは何をする学問か 形式言語 最小命題論理の - 導入規則および除去規則 最小命題論理の \wedge、\vee - 導入規則および除去規則 最小命題論理の問題演習 遠回りのない証明 量子子と最小述語論理 最小述語論理の - 導入規則及び除去規則 最小述語論理の \rightarrow - 導入規則及び除去規則 最小述語論理の問題演習 形式的な自然数論 原始再帰的関数と"$2+2=4$"の証明 再帰関数の数値的表現可能性 総合演習 形式的な論理学と言語の哲学 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

[教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』 (東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』 (日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』 (Dover)

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/ (授業 Blog)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料は毎回、事前(1 or 2 日前)にwebsite (PandA) にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学10

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
【授業の概要・目的】											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
【到達目標】											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを旨とする。</p> <p>後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。最後に、論理学の話題として、授業の進展にあわせながら、受講生の希望を踏まえ発展的な課題を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論2 意味の理論2と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性 プラヴィッツの「反転原理」 ダメットと証明の正規化可能性 「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理 直観主義論理の問題演習 排中律と古典論理 古典論理における証明・問題演習 古典論理と真理表 古典論理と完全性定理 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介1)

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介2)

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介3)

[履修要件]

前期の演習「論理学1」を履修すること

[成績評価の方法・観点]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

[教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』(Dover)

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学11

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治 学際融合教育研究推進センター 特定助教 清水 雄也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4,5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宇宙倫理学入門									
【授業の概要・目的】											
近年，人類の宇宙進出が急速に進展しつつある．地球外への活動領域拡大は，私たちに様々な恩恵をもたらすと同時に，新たな倫理的課題を突きつけることになるだろう．本講義では，人類の宇宙進出に伴う倫理的諸課題と，それらをめぐる倫理学的議論の概要を学ぶ．											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人類の宇宙進出に伴う様々な倫理的課題を理解する． ・ 宇宙倫理的課題に関する哲学者たちの見解や論証を理解する． 											
【授業計画と内容】											
講義は基本的に清水が担当する．基本的に以下の計画にしたがって講義を進める．ただし，進捗に応じて多少変更する場合がある．											
1. 宇宙倫理学の概要 An overview of space ethics											
2. 宇宙倫理学と規範倫理学 Space ethics and normative ethics											
3. 宇宙進出擁護論の神話 Myth-based space advocacy											
4. 有人宇宙活動 Manned Space Program											
5. 宇宙機の事故リスク Accident risks of spacecrafts											
6. 地球環境と宇宙開発 The Earth's environment and space development											
7. スペースデブリ Space debris											
8. 中間セッション#8212#8212期末レポートについて An interim session: some advice for writing the term paper											
9. テラフォーミング Terraforming											
10. 宇宙ビジネス Space business											
11. 安全保障と宇宙開発 National security and space development											
12. 地球外資源開発 Extraterrestrial resource development											
13. ロボットと宇宙開発 Robots and space development											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

14. 人類存続義務

The duty to support the survival of humanity

15. 講義のまとめ

Wrap-up

【履修要件】

必須ではないが、思想文化学系共通科目の倫理学（講義）を履修済みであるか同時期に受講していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。到達目標の達成度（講義内容の理解度）に基づく評価を基本とするが、独自の学習や考察を適切に盛り込んだものには特に高い評価を与える。

【教科書】

伊勢田哲治ほか編 『宇宙倫理学』（昭和堂, 2018）ISBN:9784812217382（講義に持参することが望ましいが、しなくてもよい。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：特に必要ないが、教科書の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい。
復習：講義で扱われた問題について自ら考察する。講義時に紹介された文献を読む。

（その他（オフィスアワー等））

・この授業は宇宙総合学研究ユニットの提供する宇宙倫理学教育プログラムの必修科目です。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学12

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ビデオゲームと芸術の理論									
【授業の概要・目的】											
<p>さまざまな現代の文化のなかにあって、ビデオゲーム（コンピュータゲーム、デジタルゲーム、電子ゲーム、テレビゲーム、略してゲーム）は、産業規模の点でも創造性の点でもきわめて重要度の高い領域のひとつである。ビデオゲームの際立った特徴のひとつは、いわゆるインタラクティブ性（受け手が作品のありかたに能動的に関与できること）にある。</p> <p>この講義では、ほかの芸術形式や文化形式に対して適用されてきた諸理論をビデオゲームにあてはめることを通して、ビデオゲームというメディア（表現媒体）ならではの特徴を考える。またそうしたメディア上の特徴と、ビデオゲームをめぐる文化実践の現状（たとえば批評や歴史記述の成り立ちづらさ）にどれだけ関係があるのか/ないのかについても考えたい。</p> <p>扱う題材はビデオゲームだが、ビデオゲーム以外の文化の研究にも応用できるような内容にする予定。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・芸術や文化に関する諸理論を理解する。 ・ビデオゲームならではの特徴を考える。 ・あるメディアならではの特徴を考えることがどういうことなのかを理解する。 ・メディアのありかたと文化実践のありかたの関係について考える。 											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 初期の歴史と二面性 第3回 初期の歴史と二面性 第4回 ビデオゲームと記号の理論 第5回 ビデオゲームと記号の理論 第6回 ビデオゲームとフィクションの理論 第7回 ビデオゲームと物語の理論 第8回 ビデオゲームと物語の理論 第9回 ビデオゲームと感情の理論 第10回 ビデオゲームと様式の理論 第11回 ビデオゲームと狭義の美学 第12回 ビデオゲームと制度の理論 第13回 ビデオゲームと遊びの理論 第14回 ビデオゲームを語ること 第15回 まとめ（フィードバック）											
<ul style="list-style-type: none"> ・各回とも、前半で理論を説明して、後半でそれをビデオゲームに適用するという順序で進める予定。 											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

- ・授業の進み具合によって、一部のトピックを取り上げない可能性がある。
- ・リアクションペーパーの質問・コメントを取り上げる時間を毎回設けるので、予定通りに進まない可能性もある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：100%

- ・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。
- ・質問やコメントは次回の授業で取り上げることがある。
- ・リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

各回の理論については授業内では十分な紹介ができない。
参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で学習してください。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。
いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学13

科目ナンバリング		G-LET37 78941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習Ⅰ) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化研究の手法(前期)									
【授業の概要・目的】											
メディア文化研究では、資料の形態が多岐に渡る。この演習では、そうした多様な資料を扱い、論文を仕上げていくための実践的な技法を学ぶ。											
【到達目標】											
取り上げる資料の扱いに習熟し、各々の研究テーマに合わせて柔軟に技法を組み合わせ研究を行うことができる基礎力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 雑誌・広告分析を用いた論文の検討 (雑誌編)											
第2回 雑誌・広告分析を用いた論文の検討 (雑誌編)											
第3回 雑誌・広告分析を用いた論文の検討 (広告編)											
第4回 雑誌・広告分析を用いた論文の検討 (広告編)											
第5回 LaTeXによる文書作成の基礎											
第6回 LaTeXによる定型文書作成											
第7回 LaTeXによる論文作成											
第8回 LaTeXによる論文作成											
第9回 LaTeXでの文献データの使い方											
第10回 映像分析を用いた論文例の検討											
第11回 映像分析を用いた論文例の検討											
第12回 映像分析の基礎(コーディング、分析、構成表)											
第13回 映像分析の実際											
第14回 映像分析の実際											
第15回: フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(課題の提出、発表、レポート)											
-----メディア文化学(演習Ⅰ)(2)へ続く-----											

メディア文化学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

佐藤郁哉 『質的データ分析法』 (新曜社、2008年) ISBN:9784788510951

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げた技法を使って、実際にデータ収集、分析を行う課題を出すので、しっかり取り組むこと。できるだけ自分のパソコンを持参すること。

(その他(オフィスアワー等))

PandAにコースサイトを作成し、それを通じて授業連絡を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学14

科目ナンバリング		G-LET37 78941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習Ⅰ) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化研究の手法(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>現代英語圏で主流の美学・芸術哲学(いわゆる分析美学)は、ある種の思考の割り切り(単純化と明晰さ)をベースにしつつ、活発な議論(批判と反論の応酬)を通じて協働的に美・芸術・文化・感性についての理解を深めていくことを特徴とする。</p> <p>この演習では、インターネット上などで議論されがちなものも含めた身近な文化のトピックを取り上げつつ、メディア文化を理解・研究するためのひとつの手法として、哲学的な文化研究の視点や論じ方を学ぶ。</p> <p>具体的に取り上げる文化は、教員の専門であるビデオゲーム(コンピュータゲーム、デジタルゲーム、いわゆるゲームのこと)を主に想定しているが、それ以外の文化実践も適宜取り上げる。</p> <p>授業の補助ツールとしてSlackを利用する予定。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・分析美学の見方や議論のスタイルに触れる。 ・理論を具体的な文化実践に適用することの意義・利点・限界について考える。 ・より実証ベースの研究にとって理論がどのような役割を持ちうるかについて考える。 ・どのような問いが研究として成り立つのか、どのような問いに対してどのような手法が適切なのかについて考える。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2～14回 議論と解説(以下参照) 第15回 フィードバック</p> <p>第2～14回は基本的に以下の形式で進める予定。</p> <p>Slackで課題文献を提示する。 次回授業日までに課題文献を読んでもらい、Slackにコメント(意見・疑問・批判など)を書き込んでもらう。 授業当日は、Slackの書き込みをもとに教員が関連するトピックや先行研究を紹介する。場合によっては、自身の書き込みについて学生に簡単なプレゼンテーションをしてもらう可能性もある。</p> <p>2～3週を1サイクルとして～を繰り返す。課題文献は、短めの論文やインターネット上の記事を考えている。</p> <p>課題文献や取り上げる話題については柔軟に選定するが、少なくとも以下の論点は含まれる予定。</p>											
----- メディア文化学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習Ⅰ)(2)

- ・定義の問題：ある文化的カテゴリーについて「～とは何か」という問いは成立するのか。またそれを問う意義は何か。
- ・作品の評価：作品に対する「好き嫌い」と作品の「良し悪し」はどうちがうのか（本当にちがうのか）。作品のレビューは何をしているのか。
- ・文化史記述：ある文化の歴史記述と作品の価値づけはどのように関係しているのか。「古典」とは何か。
- ・作品の解釈：作品を解釈する際に、作者の意図を気にする必要があるのか。あるいはそもそも作品の解釈とは何をすることなのか。
- ・作品の分析：作品を要素に分解して扱うことの意義は何か。それをする際にどのような理論を使うのが適切なのか。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート：60%

平常点：40%

期末レポートの課題は「授業内で出た話題に関連して自分で問いを設定し、人を納得させられるような議論を経て答えを示しなさい（字数自由）」のようなものになる予定。

平常点は授業やSlackの書き込みにおける積極的な参加度で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

上記「授業計画と内容」に記載の通り、2～3週ごとに提示される課題文献の読解とそれに対するコメントが求められる。

また、Slack上の他の学生の書き込みについても目を通し、意見や疑問などがあればコメントしたりそれに応答したりするなど、積極的に議論に参加する態度を持って授業に臨むことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業外の質問は、基本的にメールまたはSlackのDMでお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学15

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 国際マンガ研究センター 特任准教授 伊藤 遊			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ミュージアム/展覧会という「メディア」：「マンガ展」制作から考える									
【授業の概要・目的】											
<p>2000年代以降、マンガやアニメ、ゲームなどのポピュラーエンタテインメントは、公的な文化資源とみなされるようになってきている。本授業では、まず、そのような状況にいたった社会的な背景について理解することを目指す。</p> <p>多くのポピュラーエンタテインメントが、メディアを変えることで、あるいは組み合わせることで、新たなコンテンツを産み出してきたが、近年のポピュラーエンタテインメントをめぐる社会的状況の変化は、それらが、「ミュージアム」や「展覧会」というメディアにおけるコンテンツの展開を可能にしている。本授業では、授業担当者が関わってきた、京都国際マンガミュージアムにおけるマンガ展やマンガイベント、マンガワークショップなどを紹介することで、マンガが、「ミュージアム」や「展覧会」という近代的な制度にどのような影響を与え得るかを考える。</p> <p>後半には、マンガミュージアムを会場とした「マンガ展」を企画するグループワークとその発表を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>ポピュラーエンタテインメントは、ある社会的・文化的な文脈の中で登場したことを理解する。</p> <p>また、京都国際マンガミュージアムにおけるマンガ展を企画することで、「ミュージアム」「展覧会」というメディアの創造性と限界を実践的に理解する。</p> <p>同時に、プレゼンテーションの技術と方法論を実践的に学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：「コンテンツ」はいかにして公的な文化資源となったか</p> <p>第3回：京都国際マンガミュージアムができるまで</p> <p>第4回：マンガミュージアム見学</p> <p>第5回：マンガミュージアムにおけるマンガ展（1）</p> <p>第6回：マンガミュージアムにおけるマンガ展（2）</p> <p>第7回：マンガミュージアムにおけるマンガイベント</p> <p>第8回：マンガミュージアムにおけるマンガワークショップ</p> <p>第9回：マンガミュージアムにおけるイベント参加</p> <p>第10回：グループワークに向けて</p> <p>第11回～第12回：グループワーク</p> <p>第13回～第14回：グループワーク発表</p> <p>第15回：総括</p>											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）(2)

【履修要件】

特にないが、少なくとも1回、「京都国際マンガミュージアム」（京都市中京区）での授業を実施する。

【成績評価の方法・観点】

発表内容 = 70点、ディスカッションなど授業への積極的な参加 = 30点

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で配布した資料や参考文献等を読むこと。
グループワークに向けたテーマの検討、調査および報告の準備。
マンガ展に限らず、展覧会やミュージアムに積極的に足を運ぶことを期待する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学16

科目ナンバリング		G-LET37 7M432 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究の諸問題（大学院）									
【授業の概要・目的】											
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。											
【到達目標】											
修士論文および博士論文を作成する上で必要になる力を養う。											
【授業計画と内容】											
1 回目: 修士論文・博士論文の予定テーマについて、各受講生がその要略を説明する。 2 回目以降: 各回とも、1名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。 最終回: フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度。60点）とレポート（40点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学修（予習・復習）等】											
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、枚数制限は設けないが、報告時間が1時間以内におさまる分量にすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
専修のSlackを連絡手段として活用する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 坂本 尚志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』 - 1960年代フランスにおける概念の哲学の系譜									
【授業の概要・目的】											
20世紀の思想を扱う場合に無視できない重要性を持つメディアである「雑誌」ならびにそれが表象する場をいかに分析できるのかを考察する。特に、少人数のグループによって少部数が編集・刊行されたのみにもかかわらず、同時代の思想に影響を与えた雑誌に着目する。具体的には、1960年代後半にパリの高等師範学校生によって刊行された2つの雑誌『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』を対象とし、刊行の背景、内容、同時代ならびに後世に与えた影響について、所収されたいくつかのテキストを読解しつつ考察する。これらの内容により、雑誌と内在的諸構造の分析ならびにその歴史的、思想的文脈の再構成に関する方法論的知見を身に付けることを目指す。											
【到達目標】											
雑誌を対象とした思想史的分析の方法を理解する 1960年代フランス思想史の基本的論点について説明できる 哲学・思想に関するテキストを読解し、その論点について説明できる											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、進行状況や受講生の関心や議論の内容等に応じて適宜順序、内容を変更する場合がある。											
第1回 イン트로ダクション 1960年代のフランス思想と「概念の哲学」											
第2回 高等師範学校という舞台											
第3回 アルチュセール、ラカン、カンギレム 2つの『手帖』誕生の背景											
第4回 『マルクス=レーニン主義手帖』と『分析手帖』 分裂と発展											
第5回 『分析手帖』の考察 - 精神分析											
第6回 『分析手帖』の考察 - マルクス主義											
第7回 『分析手帖』の考察 - エピステモロジー											
第8回 『分析手帖』の考察 - スピノザルネサンス											
第9回 『分析手帖』における論争 - ミレールとバディウ											
第10回 『分析手帖』とフーコー 「エピステモロジーサークルへの回答」											
第11回 『マルクス=レーニン主義手帖』 - その成立を探る											
第12回 『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』 - 文学をめぐる対立											
第13回 68年5月の衝撃 - 2つの『手帖』の終焉											
第14回 廃墟だったのか、それとも未来への種子だったのか？ 2つの『手帖』の意義											
第15回 フィードバック											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点(授業参加等)50%
最終レポート50%

[教科書]

授業で使用する資料については、事前にアップロードあるいは当日配布する。

[参考書等]

(参考書)

上野修、米虫正巳、近藤和敬編『主体の論理・概念の倫理 20世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義』(以文社、2017年) ISBN:978-4753103386(坂本尚志「構造と主体の問い 『分析手帖』という「出来事」」(169-191ページ))

フランソワ・ドゥス『構造主義の歴史 上 記号の沃野 1945~1966年』(国文社、1999年) ISBN:978-4772004626

フランソワ・ドゥス『構造主義の歴史 下 白鳥の歌1967~1992』(国文社、1999年) ISBN:978-4772004633

Peter Hallward and Knox Peden『Concept and Form, 2 vols.』(Verson, 2012)

(関連URL)

https://doi.org/10.20634/ellf.115.0_255(坂本尚志「『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』1960年代フランスにおける学知、革命、文学」)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示します。

(その他(オフィスアワー等))

質問事項については、授業前後に問い合わせるか、メールにてお願いします。
メールアドレスは授業中にお知らせします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学18

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本近現代社会経済史									
【授業の概要・目的】											
近現代日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く工業化と経済成長とを成し遂げ、それと同時に帝国主義国にもなった日本の経験について理解を深めることは、現代日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、発展途上国の経済開発や今後の国際関係などについて考察する際にも有益であろう。											
【到達目標】											
現代日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．近世経済の概観 2．幕末・維新期の経済と政策 3．地主制の成立と機能 4．産業革命 5．帝国主義日本の成立 6．第1次世界大戦とその影響 7．不況下の成長：1920年代 8．昭和恐慌と経済政策 9．財閥と新興コンツェルン 10．戦前期の労使関係 11．「大東亜共栄圏」とその崩壊 12．占領、復興、特需 13．高度経済成長 14．安定成長から停滞へ 15．フィードバック 											
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間レポート（25%）＋期末レポート（75%）によって評価する。											
【教科書】											
レジュメを配布する。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代 第4版』(東京大学出版会、2021)

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史 新版 江戸時代から21世紀へ』(有斐閣、2007)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学19

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エネルギーからみる日本の近現代									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、近現代日本の社会経済史をエネルギーの観点から追究することである。エネルギーの確保がどのように行なわれてきたのかを理解すると同時に、その変化が人びとの生産・生活にどう影響したのかを検討することを通じて、現代のエネルギー問題を長期的な観点から考察する能力を養いたい。											
[到達目標]											
現代におけるエネルギー問題を歴史的な視点から考察する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 産業革命と人新世 2 在来エネルギーの利用とトレードオフ 3 水資源開発の進展と植民地 4 石炭への転換と都市問題 5 エネルギー革命と臨海工業地帯 6 原子力の登場と国策共同体の形成 7 フィードバック 											
[履修要件]											
前期の講義を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポートによって評価する。											
[教科書]											
レジュメを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 平井健介・島西智輝・岸田真編著 『ハンドブック日本経済史－徳川期から安定成長期まで』（ミネルヴァ書房、2021） 中西聡編 『経済社会の歴史－生活からの経済史入門』（名古屋大学出版会、2017）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに調査すること。また、関連する新聞・雑誌記事などに積極的に目を通すこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学20

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		米・中東関係の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが、それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また、米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっているとされるが、米・中東関係の歴史については（当事国である米国においてさえ）正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが、やや概説的に、19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>米・中東関係の歴史的展開について、全体的な見通しを把握するとともに、重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。</p> <p>また、中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて、近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識、およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。</p>											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について、それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. 中東の近代：Western impactから主権国家システムの生成（2回） 3. 西側統合政策の展開と挫折（1950年代）（4回） 4. オフショア・バランスの時代（1960-80年代）（3回） 5. 覇権的政策の盛衰（1990年代以降）（4回） 6. まとめとフィードバック（1回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

小野沢 透 『幻の同盟：冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）
五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に適宜指示する。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学21

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食をめぐる研究の方法											
2 明治大正期の食											
3 アジア太平洋戦争までの食											
4 戦後の食											
5 牛乳の歴史学											
6 品種改良の歴史学											
7 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学22

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食糧戦争としての第一次世界大戦											
2 有機農業の歴史											
3 毒ガスと農薬の歴史											
4 トラクターの歴史											
5 戦時期の農村女性たち											
6 食糧戦争としての第二次世界大戦											
7 フィードバック											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学23

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		物語と文化財、そして美術									
【授業の概要・目的】											
<p>近世から近代へと移行する中で、神話や物語は再編され、名所・旧跡は文化財として新たに価値づけられた。そのなかでも神武創業や南朝正統論などは典型であるが、その他、前近代に源平の戦いの表象にあった宇治には20世紀に国風文化の貴族や「源氏物語」の女性のイメージが付与された。近代天皇制が形成される中で、天皇陵や御物など「万世一系」を視覚化し、国民道徳をあらわす史蹟が生み出された。南画家の富岡鉄斎は明治維新から大正期まで文人として生きるが、彼の絵画は天皇崇敬の国民道徳を視覚化するものであった。</p>											
【到達目標】											
<p>注のある形式の論文が作成できる。「物語と文化財、そして美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語と文化財 ・ 「歴史まちづくり法」と宇治 ・ 「歴史まちづくり法」と向日町 ・ 世界遺産と百舌鳥・古市古墳群 ・ 大山古墳と「仁徳天皇陵古墳」の名称 ・ 神武天皇陵の近現代 ・ 名教的文化財 ・ 南朝史蹟 ・ 赤穂浪士と旧跡 ・ 天皇陵の明治維新 ・ 「万世一系の神話」と天皇陵 ・ 「万世一系の神話」と御物 ・ 富岡鉄斎と明治維新 ・ 鉄斎が描いた南朝史蹟 ・ 鉄斎が描いた天皇行幸 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

高木博志ほか『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

高木博志『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

[授業外学修（予習・復習）等]

京都において、「物語と文化財、そして美術」に関わる巡見を希望者とする。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学24

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		京都らしさと文化、社会を描く美術									
【授業の概要・目的】											
<p>日露戦後の20世紀には社会問題が浮上し、庶民の生活や労働を描こうとする画家たちが現れる。京都では第二高等女学校で教えながら貧困の中、市井の庶民を描いた千種掃雲、その弟子で花街の雇仲居や遊女を題材とした梶原緋佐子、奈落の吉原遊女に向き合った秦テルヲなど、京都画壇の周縁の新しい動向を取り上げる。同じように京都の花街・遊廓の買春の現実に向き合った竹久夢二・野長瀬晩花も考える。また大正期の民芸運動は、明治以来の古社寺保存法などで政府が困り込んだファイン・アートからはこぼれ落ちたものに光をあてた。柳宗悦・河井寛次郎・寿岳文章らの営みを紹介したい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「京都らしさと文化、社会を描く美術」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日露戦後の社会 ・ 第一次世界大戦後の大衆社会 ・ 社会を描く ・ 京都と遊廓・花街 ・ 「千種掃雲日記」を読む ・ 梶原緋佐子が描く社会 ・ 秦テルヲと花街・遊廓 ・ 国画創作協会の若き才能 ・ 鴨東カルチェラタン ・ 京都と舞妓表象 ・ 大正期の祇園もの、南蛮憧憬 ・ 柳宗悦と民芸運動 ・ 寿岳文章と『紙漉村旅日記』 ・ 芹沢銈介と染織工芸 ・ 河井寛次郎 <p>以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。</p>											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。レポート作成について指導する。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

【授業外学修（予習・復習）等】

「京都らしさと文化、社会を描く美術」に関わる巡見を希望者で行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学25

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モノからみる中国近代史									
【授業の概要・目的】											
<p>近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 中国経済の仕組み 3. 中国茶貿易の発展 4. アジア間競争と中国茶の行方 5. アヘン貿易の発展 6. 中国アヘンの発展 7. 日中戦争とアヘン 8. 中国の米生産と動乱 9. 外国米貿易の発展 10. 羊毛貿易の勃興 11. 羊毛と内地経済 12. 大豆貿易の発展と満洲の開発 13. 大豆貿易と中国政治 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仲介者のつくる歴史 近代中国									
【授業の概要・目的】											
<p>グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきている。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性は高い。新型コロナウイルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 明清時代の商業と牙行 3. 清代海上貿易の展開と仲介者 4. アヘン貿易と仲介者 5. 開港場貿易：外国人商人と買弁（1） 6. 開港場貿易：外国人商人と買弁（2） 7. 苦力貿易と客頭（1） 8. 苦力貿易と客頭（2） 9. 開港場貿易の発展と行棧（1） 10. 開港場貿易の発展と行棧（2） 11. 工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡 12. 前近代東南アジア海域の仲介者 13. 前近代地中海世界の仲介者 14. まとめ 15. フィードバック 											
【履修要件】											
前期・後期ともに履修することが望ましい。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学27

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本近現代社会経済史									
【授業の概要・目的】											
近現代日本の社会経済史について、通史的な知見を提供することが目的である。非欧米諸国のなかでいち早く工業化と経済成長とを成し遂げ、それと同時に帝国主義国にもなった日本の経験について理解を深めることは、現代日本社会を長期的視点から探究する能力を高めると同時に、発展途上国の経済開発や今後の国際関係などについて考察する際にも有益であろう。											
【到達目標】											
現代日本経済の諸特徴がどのような過程で形成されてきたのかを、総合的・俯瞰的に把握する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 近世経済の概観 2 . 幕末・維新期の経済と政策 3 . 地主制の成立と機能 4 . 産業革命 5 . 帝国主義日本の成立 6 . 第1次世界大戦とその影響 7 . 不況下の成長：1920年代 8 . 昭和恐慌と経済政策 9 . 財閥と新興コンツェルン 10 . 戦前期の労使関係 11 . 「大東亜共栄圏」とその崩壊 12 . 占領、復興、特需 13 . 高度経済成長 14 . 安定成長から停滞へ 15 . フィードバック 											
受講者の関心等に応じて変更の場合あり。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
中間レポート（25%）+ 期末レポート（75%）によって評価する。											
【教科書】											
レジュメを配布する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

三和良一・三和元 『概説日本経済史近現代 第4版』(東京大学出版会、2021)

宮本又郎・阿部武司ほか 『日本経営史 新版 江戸時代から21世紀へ』(有斐閣、2007)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の講義で関連文献・史料を紹介するので、それらを読み進めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学28

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 小堀 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エネルギーからみる日本の近現代									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、近現代日本の社会経済史をエネルギーの観点から追究することである。エネルギーの確保がどのように行なわれてきたのかを理解すると同時に、その変化が人びとの生産・生活にどう影響したのかを検討することを通じて、現代のエネルギー問題を長期的な観点から考察する能力を養いたい。											
[到達目標]											
現代におけるエネルギー問題を歴史的な視点から考察する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
<ol style="list-style-type: none"> 1 産業革命と人新世 2 在来エネルギーの利用とトレードオフ 3 水資源開発の進展と植民地 4 石炭への転換と都市問題 5 エネルギー革命と臨海工業地帯 6 原子力の登場と国策共同体の形成 7 フィードバック 											
[履修要件]											
前期の講義を履修していることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
期末レポートによって評価する。											
[教科書]											
レジュメを配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 平井健介・島西智輝・岸田真編著 『ハンドブック日本経済史ー徳川期から安定成長期まで』（ミネルヴァ書房、2021） 中西聡編 『経済社会の歴史ー生活からの経済史入門』（名古屋大学出版会、2017）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
講義内容のうち関心のあるテーマについて、さらに調査すること。また、関連する新聞・雑誌記事などに積極的に目を通すこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 人間科学研究科 教授 藤目 ゆき			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		占領軍被害の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>連合占領期は闇の深い時代である。占領期は戦争と軍国主義からの解放と民主化という明るい側面がしきりに強調され、日本占領こそ輝かしい「占領の成功モデル」だといった言説が今も流布されている。だが占領期は、連合占領軍が絶大な権力を行使し、その事故や犯罪のために市民が殺傷されてすら闇にられてしまう恐ろしい時代でもあった。本講義では、一九五〇年代後半におこなわれた調達庁労働組合による大規模調査資料をはじめ、長い年月埋もれてきた史料を用いて、占領軍人身被害の角度から占領史を再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>(1)「8・15終戦」論や「占領の成功モデル」といった言説の虚構性を理解する。</p> <p>(2)占領初期から日本の非軍事化・民主化に背反し、日本をアジアの「反共防波堤」として再建する方向へ向かう統治が始まっていることを理解する。</p> <p>(3)朝鮮戦争期に日本が「国連軍」の基地となり、日本が戦域に入ったことによって各地に人身被害が発生していたことを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．研究の意義と方法 2．日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害 3．占領軍労務動員と労働災害死傷 4．暴行・傷害・殺人 5．軍事演習被害・朝鮮戦争被害 6．占領軍人身被害補償運動の歴史的意義 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）60点、期末レポート40点で評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

藤目ゆき 『占領軍被害の研究』（六花出版、2021年）ISBN:ISBN978-4-86617-157-9
授業中に配布するレジюмеと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

（参考書）

『占領軍による人身被害調査資料集 編集復刻版』（六花出版、2021年）
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学30

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大学文書館 教授 西山 伸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「京都大学百二十五年史」を読む 1									
【授業の概要・目的】											
1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、創立から敗戦までを対象とする。											
【到達目標】											
近代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本近代史史料を読み込む能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 京都帝国大学の創立 3 大学像の模索 4 「大学自治」をめぐる 5 大正期の高等教育改革と諸制度の整備 6 学生の諸相 7 社会運動の展開 8 滝川事件(1) 9 滝川事件(2) 10 戦時下の諸動向(1) 11 戦時下の諸動向(2) 12 兵役と学生 13 戦争末期の状況 14 敗戦 15 まとめ(フィードバック) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学31

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学経営学部 教授 石川 亮太			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代転換期における朝鮮の経済・社会									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀朝鮮の経済史について、開港前後における経済体制の連続/非連続の問題を念頭に検討する。従来の研究では、開港後の対日貿易に注目し、それが日本の資本制工業製品と朝鮮産穀類の交換を軸に拡大していくことを強調してきた。それは開港後の日朝関係を、植民地化に向かう直線的な道程として目的論的に捉える歴史観とも親和的であった。しかし朝鮮社会の側に視点を置いて考えてみると、開港後の対日関係に触発されたかに見える変化が、実はそれ以前からの長期的なトレンドのなかで理解すべきものである場合が多々あることに気づく。こうした見方に立って、経済史上の諸論点について近年の研究成果を整理し、通説的な見方を再検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮開港期の経済・社会について、日本や中国とも比較しつつ、その特徴を理解できるようになる。 ・朝鮮開港期における経済史の主要論点について、その学説史的な背景とともに理解できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この講義の視座と問題意識【1週】 2. 朝鮮後期の経済トレンドについての近年の議論【4週】 3. 開港に伴う朝鮮経済の変化【4週】 4. 東アジア経済史の視点からみた朝鮮の位置づけ【4週】 5. まとめと総括【2週】 <p>フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への積極的な参加に対する平常点(50パーセント)と学期末レポート(50パーセント)により評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学32

科目ナンバリング		U-LET32 28202 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学哲学入門(上)									
[授業の概要・目的]											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。前期の講義においては、科学とはなにかという問題、科学的推論や科学的説明をめぐる問題を、科学全体に関わるテーマと個別の領域に関わるテーマに分けて論じる。											
[到達目標]											
科学とは何か、科学的推論とは何か、科学的説明は何か、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
[授業計画と内容]											
1 科学とは何か(4回) 2 科学的推論(4回) 3 個別科学における科学的推論(2回) 4 科学的説明(2回) 5 個別科学における科学的説明(2回) フィードバック(1回)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
[教科書]											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30(オンライン授業となった場合は設けない)。 開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンド授業やリアルタイムのハイブリッド授業となることもありうる。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学33

科目ナンバリング		U-LET32 28204 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学哲学)(講義) Philosophy of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学哲学入門(下)									
[授業の概要・目的]											
科学哲学は「哲学」という視点から「科学」に切り込む分野である。本講義では、多様化のすすむ科学哲学のさまざまな研究領域を紹介し、受講者が自分の関心に応じて今後掘り下げていけるような「入り口」を提供する。後期の授業では科学的实在論や科学の変化、科学と価値などのテーマを順にとりあげ、関連する個別科学におけるテーマも検討する。											
[到達目標]											
科学における实在の問題とは何か、科学はどのように変化するか、科学と価値の関係はどうなっているか、といった問題について、科学哲学の基礎的な概念と考え方を理解し、それを適切に科学の具体的事例に適用できるようになる。											
[授業計画と内容]											
1 实在論と反实在論(3回) 2 個別科学における实在論問題(3回) 3 科学の変化と科学革命(3回) 4 個別科学における変化の問題(2回) 5 科学と価値(3回) フィードバック(1回)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
2回のレポート(各50%)で評価を行う。評価は到達目標の達成度にもとづいて行う。 1回でもレポートをさぼると不可となるので注意されたい。											
[教科書]											
サミール・オカーシャ 『科学哲学』(岩波書店)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
受講者は各授業前にテキストの該当箇所を読むことが期待されている。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは金曜日15:00-16:30(オンライン授業となった場合は設けない)。 開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンド授業やリアルタイムのハイブリッド授業となることもありうる。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学34

科目ナンバリング		U-LET32 18206 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学史I)(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 瀬戸口 明久			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学史入門1 (現代科学と科学史)									
【授業の概要・目的】											
<p>科学とはどのような営みなのだろうか。このような問いについて歴史的なアプローチを通じて考えようとするのが、科学史という分野である。また科学史は、科学者たちが直面した問題から出発して研究が深められた分野でもある。そこで本講義では、20世紀の科学者たちがどのような問題と向き合い、どのような科学史像を示したのか論じていく。そこから20世紀の現代科学と科学史の両方のあり方が見えてくるだろう。具体的には、以下のような科学史・科学論の論者を取り上げる。広重徹、柴谷篤弘、トーマス・クーン、デレック・デ・ソラ・プライス、イアン・ハッキング、ロレイン・ダストン、ピーター・ギャリソン。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - 科学とは何か、これまでの科学史を踏まえて考えられるようになる。 - 科学技術についてユニークな視点を持つテキストをきちんと読み通して深く考えてみる。 											
【授業計画と内容】											
<p>ガイダンス：現代科学と科学史（1回）</p> <p>I 科学者と科学論 日本の経験（4回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．現代物理学と国家：科学の体制化 2．分子生物学と情報社会：反科学論 <p>II 科学論の展開 科学とは何か（8回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．パラダイムと科学者共同体 2．ビッグ・サイエンスと情報社会 3．実験の科学史 4．観察の科学史 <p>まとめ：科学技術社会を生きる（1回） フィードバック（1回）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（講義後の小課題）（50％）とレポート2回（50％）。											
【教科書】											
使用しない											
----- 系共通科目(科学史I)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(科学史I)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

適宜、参考資料を配付する(PandAを利用する)ので、レポート作成の際などに読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学35

科目ナンバリング		U-LET32 18208 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(科学史II)(講義) History of Science (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 瀬戸口 明久			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		科学史入門2 (生命と環境の科学技術史)									
【授業の概要・目的】											
この講義では、現代の科学技術にかかわる諸問題について歴史的な視点から考えていく。とくに注目するのは環境をめぐる科学技術である。歴史の役割は、現在の諸問題への解を与えるのではなく、現在をまったく違う視点から考えられるようになることである。この授業では、長期的なスパンで環境の科学技術史を見ていくことで、自然と人間の関係について考え直すための視座を提供したい。											
【到達目標】											
- 科学史を通じて、これまでとは異なる視点から現在の科学技術について考えることができるようになる。 - 科学技術についてユニークな視点を持つテキストをきちんと読み通して深く考えてみる。											
【授業計画と内容】											
ガイダンス：自然と人間の科学技術史（1回）											
I 災害と科学技術（7回） 1．病気の科学技術史 2．3.11の科学技術史 3．害虫の科学技術史 4．自動車の科学技術史											
II 環境と科学技術（5回） 1．空気の科学技術史 2．時間の科学技術史 3．野生生物の科学技術史											
まとめ：科学技術社会における環境（1回） フィードバック（1回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（講義後の小課題）（50％）とレポート2回（50％）。											
【教科書】											
使用しない											
----- 系共通科目(科学史II)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(科学史II)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

適宜、参考資料を配付する(PandAを利用する)ので、レポート作成の際などに読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

科学史Iと科学史IIは独立した科目なので、個別に履修してよい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学36

科目ナンバリング		U-LET37 18902 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(メディア文化学)(講義 a) Media and Culture Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3,4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究入門									
【授業の概要・目的】											
<p>「メディアを用いる生活様式と、その共有のあり方」がメディア文化であるとするれば、その研究対象は、メディアを介して受容されるコンテンツの内容のみならず、その基盤技術のありようや受容のありようも含まれることになる。</p> <p>本講義では、この分野を代表するいくつかの研究領域を採り上げ、その研究方法論について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>メディア文化を研究対象として捉えて分析を行うためのさまざまな方法論にふれることによって、自分が研究しようとする対象に適切な研究方法を選ぶ力をつける。</p> <p>またいずれの領域でも重要になってくる歴史学・哲学の視点を身につけることによって、それらを通して現代の社会問題を考える力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>隔週で週2コマを使って授業をする。</p> <p>第1回：メディア文化学とは（2コマ） 第2回：アニメに関わる研究領域とその方法論（2コマ） 第3回：広告に関わる研究領域とその方法論（2コマ） 第4回：インターネット文化に関わる研究領域とその方法論（2コマ） 第5回：インターネット文化に関わる研究領域とその方法論（2コマ） 第6回：ゲームに関わる研究領域とその方法論（2コマ） 第7回：物語に関わる研究領域とその方法論（2コマ） 第8回：フィードバック（1コマ）</p> <p>（各回は2コマ続きなので、計15回相当の授業を行う）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価(PandAを通じての予習・復習課題、小レポートの内容など)											
【教科書】											
授業中に指示する 適宜プリント等を配布する。											
----- 系共通科目(メディア文化学)(講義 a)(2)へ続く -----											

系共通科目(メディア文化学)(講義 a)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する研究書ならびにWebサイトを、授業後に閲読・観覧すること。

(その他(オフィスアワー等))

PandAから、課題を提示したり、スケジュールやWebリソースの紹介を行うので、こまめにチェックすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学37

科目ナンバリング		U-LET35 28407 LJ38									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(現代史学)(講義I) Contemporary History (Lectures I)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		現代史学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>「現代」の起点は、第一次世界大戦に求められることが多い。このような見方は、今日でもひとつの有力な視点である。しかし、それが提起されたのは、20世紀半ばから後半にかけてのことである。21世紀の今日の視点から見直すとき、「現代」という時代の枠組みにも再考の余地があるかもしれない。</p> <p>このような問題意識に立ちつつ、19世紀以来の「世界史」の展開を21世紀に至るまで概観する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・「近代」～「現代」の世界史の展開について、基本的な史実とその歴史的位置づけを理解する。 ・時期区分の問題を含め、歴史的な思考とはどのようなものか、具体的史実に即して理解する。 											
【授業計画と内容】											
以下のテーマを扱う予定。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：「現代」はどのような時代と捉えられてきたのか？ 2. 近現代世界史という視点 3. 長い19世紀 二重革命と「近代」の始まり 4. 長い19世紀 資本の時代 5. 長い19世紀 帝国の時代 6. 短い20世紀 第一次世界大戦とロシア革命 7. 短い20世紀 大恐慌と第二次世界大戦 8. 短い20世紀 冷戦と人類史の「黄金時代」 8. 短い20世紀 社会主義圏と第三世界 10. 短い20世紀 「黄金時代」の終焉 11. 短い20世紀 社会主義圏の終焉 12. 21世紀 ワシントン・コンセンサスの時代 13. 21世紀 「対テロ戦争」の時代 14. アメリカ外交史から見た現代史 15. まとめ、フィードバック 											
【履修要件】											
現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。											
-----系共通科目(現代史学)(講義I) (2)へ続く-----											

系共通科目(現代史学)(講義I) (2)

[成績評価の方法・観点]

学期末試験

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義の中で紹介した文献など、各自で関連書籍を読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学38

科目ナンバリング		U-LET35 28408 LJ38									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(現代史学)(講義II) Contemporary History (Lectures II)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		東アジアのなかの日本近現代史									
【授業の概要・目的】											
日本近現代史について、主として政治外交史を通史的に論じながら、近代性、世界システム、ナショナリズム、植民地主義、ヒトの移動、歴史認識など、日本近現代史を世界史、特に東アジア史の一部として理解するための視点や論点を提示する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近現代史、特に政治外交史に関する基本的な論点について、具体的な根拠に基づいて論じられるようになる。 ・世界史、特に東アジア史の一部としての日本近現代史を理解することで、通念的なナショナル・ヒストリーを相対化する視点を獲得する。 ・歴史学とは単なる知識の修得とは異なり、過去の世界に対する絶えざる「問い」であることを理解し、これまでの知見を踏まえて自ら発問できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
以下に予定した各回の項目は、状況に応じて微調整することがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 「近代」はいつ始まるか 3 世界市場と東アジア 4 明治維新 5 主権国家体制と東アジア 6 立憲政治の形成 7 社会運動と民族運動 8 帝国日本と人の移動 9 中国侵略から対米開戦へ 10 総力戦と社会 11 敗戦と占領 12 東アジアの分断と日米安保体制 13 高度経済成長と沖縄復帰 14 東アジアの戦後処理と歴史和解 15 まとめとフィードバック 											
【履修要件】											
現代史学専修に所属する学生は、卒業までに現代史学講義I,IIをそれぞれ履修し、計4単位を取得する必要がある。Iを2回、またはIIを2回履修して4単位とすることはできないので注意すること。											
-----系共通科目(現代史学)(講義II)(2)へ続く-----											

系共通科目(現代史学)(講義II)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回、授業後に提出する課題によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義で紹介する参考文献を、各自でできる限り読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。